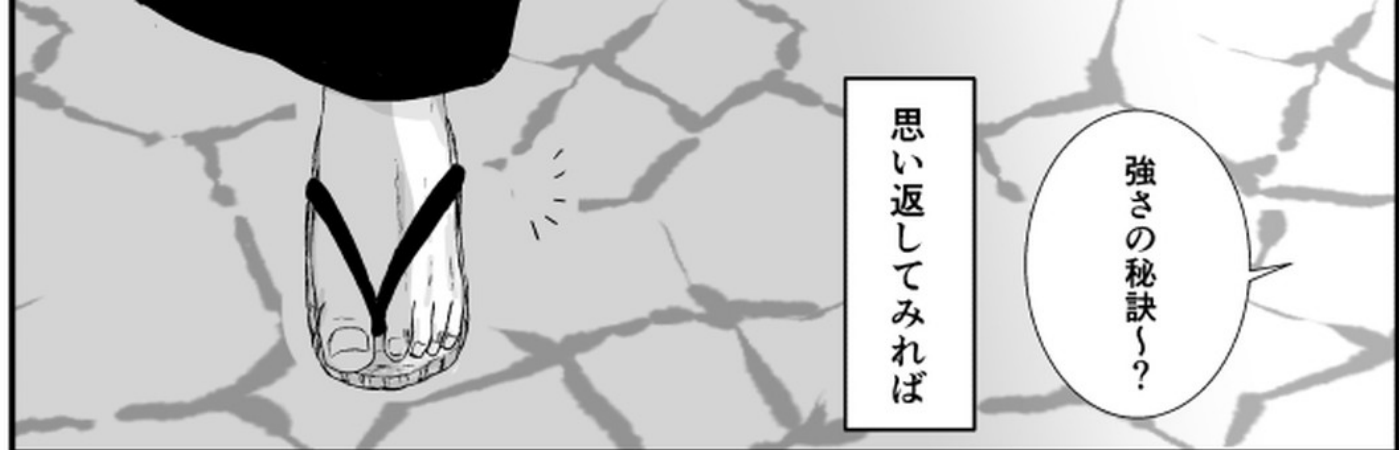


たとえるなら
青天の霹靂
セイテンノヘキレキ
のような

Web再録

R18
For Adult Only





思い返してみれば

強さの秘訣〜？



僕は
「忘れ
だな！」



見回りの途中に聞いた
あの酔っぱらいの
言葉がきっかけだったのだ

鬼灯様？

だから――

ねえ…

その夜の帰り道

行かないでよ

置いてかないでよ…

ねえ…

酔いつぶれて
ゴミと化した
コイツを

捨てたままに
できなかった





白澤さん



そろそろ
起きてください

白澤さん

ん...

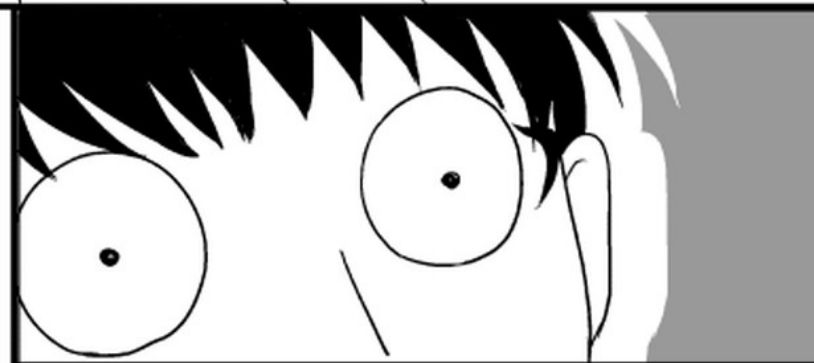


目が
覚めましたか



わあああああ

アアアアア



な…なんで
お前が隣で
寝てるんだよ

私の部屋
ですから

だから！
どうして僕が
お前の部屋に
いるんだっつもの！！

それに…

なんで裸…？

泥酔のあなたが
路上で寝こけてたんで
回収したんですよ

どうせ女性方に
奢らされた末に
置いて行かれ
たんでしょう

四星か

服は泥が
ついてたんで
洗濯中です

けっ
っ

拾って連れ帰って
ベッドに寝かせて
もらった相手に
言うセリフかそれ

帰る！
なんか服貸せ！

あーもう
お前に拾われるなんて
最低だ！

あなた
寂しいんですか？

ところで

下も脱がせてある...

……はっ

昨夜寝言で
何度も言っ
てましたよ

え……
なんだよ
それ……



泣いてました

はあ？
寂しいわけないだろ
毎日女の子達と
楽しくやってる
っつーの



関：お前には
関係ないだろ



は？

それが
関係なくも
ないんです
よねえ……



あなたが
好きなんですよ

私



おい

あなたのことが
好きなんですよ
それはもう
ずっと前から



はあ…

まあいいでしょう…

カタン



信じませんか

当たり前だろ

それは新しい
嫌がらせか？



この部屋の
風呂使って
構わないですよ

その着物
お貸しますので
着て帰って下さい

私はもう仕事に
行きますので

ああ

それと



昨夜、あなたと
寝ましたので

あーあー！
確かに
そうだったな

黒いのかよ…

忘りたい…

働けよ
朝帰り上司

一体どうしたんすから
朝帰りしたと思っただけ
ずっと突っ伏した
ままじゃないですか

ガターン!!

聞いてよ
桃太郎君!
アイツってば…っ

「アイツ」?

あ…っいや
何でもないんだー
あははは

とにかく
誰が信じるか
そんなこと!

いやそういう
問題じゃなくて!

ふざけんよ
フツッ僕が抱く方だろ!

確かに
腰めっちゃ痛い…

僕が抱かれた側?

しかも抱いたって?

僕と寝た?

あー
信じらんないよもー
あの一本角!



好きなんですよ

……

えーえー
嘘だろお
だって今まで
そんな素振り
皆無だったじゃん

嘘だ嘘だ嘘だ

だまされるな僕！

ガン

こんにちは

わあ
あ
あ
あ
あ

な……なんだよ
何しに来た？
ないま受けてる注文は
ないはずだぞ！

あなたの服
お返しに
来ました

え？

僕の服？

なんだよ
別にわざわざ
届けに来なくても
よかったのに……

ごーも

口実ですよ

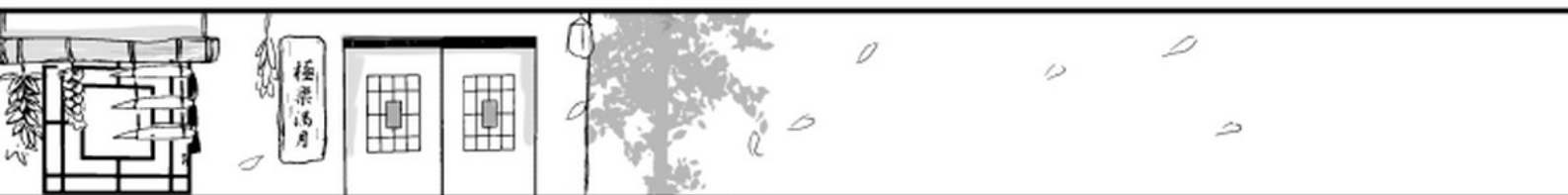
本当はあなたが
寂しがってるんじゃないか
かと思っちゃ

し
はあ？

これから
時間がある時は
できる限り
こちらへ来ます

え……
なに言ってるのお前……

好きな人に
寂しい想いなんて
させたく
ありませんので





おまえかよ

また…



そうですか…



配達に出てる

今日は
桃太郎さんは？



たじろの
塚本さん

ちょっと刑場の方で
トラブルがありました
五日間ほど
寝てないので

五日？！

ああ…

お前…
なんか顔色
悪くないか？

五日って…
前回ここに来た日から
寝てないのかよ!

…そうなりますね

バカか!
ここへ来る暇あったら
自分の部屋帰って
寝ろよ!

あなたに

会いたかったので



はい?

どうせ
ロクなもの
食ってねーんだろ

薬膳粥でも
作ってやる

…座っとけよ

コッソリ









あなたは
優しいですね

言葉では
文句を
言いながら

私の顔を
ひと目見て
体調を心配し
こうしてくれ
焼いてくれる

忘れないで
ください

あなたに
寂しい思いを
させたくないのは
本当ですが

なによりも
私があな
に会いたく
て来てる
んです



急かすつもりは
ありませんが

早く
私の望む返事を
聞かせてください

台所に
行つてますね

やっほー…

ホーン…

やっほー…うわ

プーン…

トキキ

トキキ

トキキ…

あつがわい

カリン

あら
何か嫌なことでも
ありましたの？

あついやつ
そういやつ
ないんだけどね
ハハ...

へーきだよお
今日は
酔いたいんだー

白澤様
呑み過ぎなんじゃ
ないです？

もしかして
なにか思い悩んで
いらっしゃる？

えっ...
どうして？

白澤様

ふふ…だって
今夜お会いして
一時間くらい経つのに
まだ口説いて
いらっしやらないから

えっそう？

てか
僕いつも
そんな速攻で
口説いてたっけ？

ええ、それはもう

なにか
重要なことを
考えてらっしやるわ
そう、たぶん…

恋愛とか

えっ

だってお一人で
考え込んでると
思ったら
急に顔を赤く
なさったりするし
それに…

…とても
色気のある
お顔なさってる

あー…
お香ちゃんには
敵わないな…

…想いをね

伝えられたんだ

カラン

思っても
なかつた
相手から



はつきり
なさらないのね
珍しいわ



お香ちゃんのこと
はハッキリと
好きだよお僕

あーい
はいはい

あっ
今あしらった!

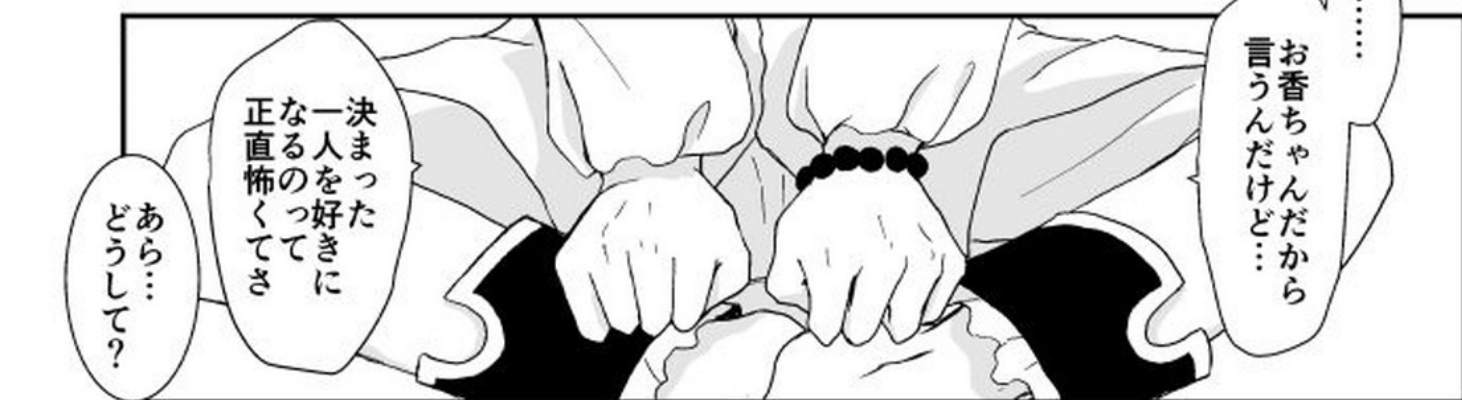


白澤様のお
気持ちは?

う……ん
多分……

お好きなのね?

う……うん……
いいいや
まだ迷ってる



……
お香ちゃんだから
言うんだけど……

決まった
一人を好きに
なるのって
正直怖くてさ

あら……
どうして?



僕が「白澤」だから

……

…白澤様の幸せが

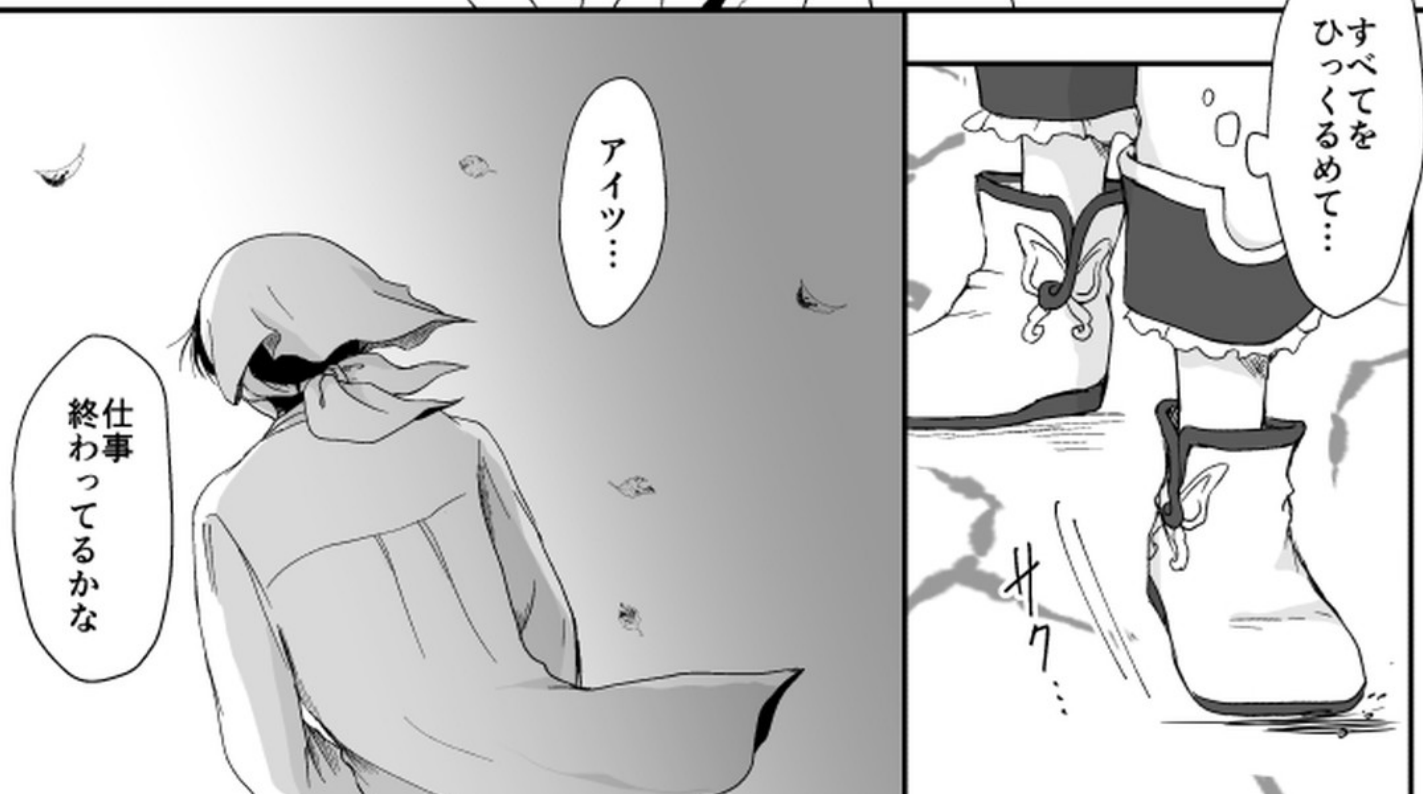
どんなものかは
分からないけれど

その怖いという
気持ちもひつくるめて
素直にお伝えになったら
どうかしら

だって
きつとお相手は
白澤様が白澤様で
あることもすべて
ひっくるめて
お好きなんでしょう？

それが解ってるから
白澤様だって
逡巡してらっしゃるんだわ

お相手の方には
それすら
お見通し
かもしれないけど
フフ…



なんて言うの？

困った…


しかし…

まあ…

なるように
なる…か


がんばれ僕

ちよつと
待ったああ!!



ちよ……っ
君なにやってるの
ダメだよ!!

離して!



うわっ……
ね、お願いだから
暴れないで……!

あの男と
一緒に死ぬの!

私も死ぬの!
死んだあひとの
ところに行くの!

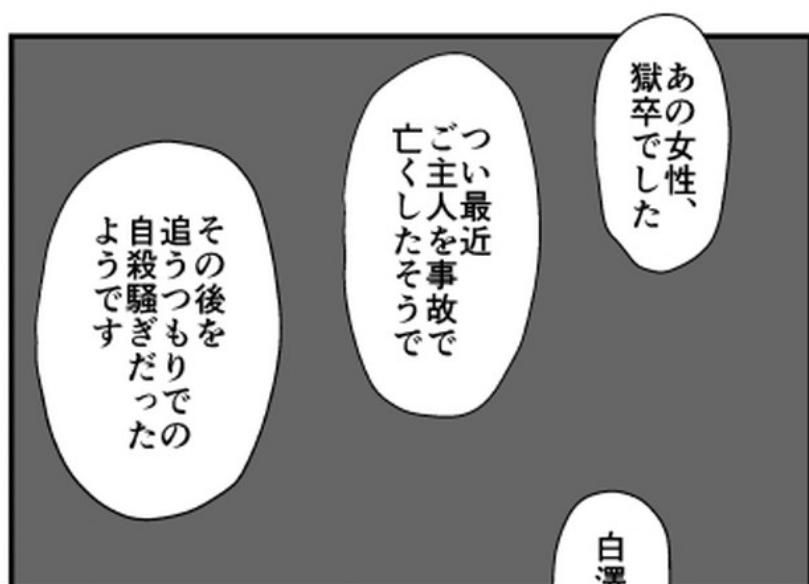
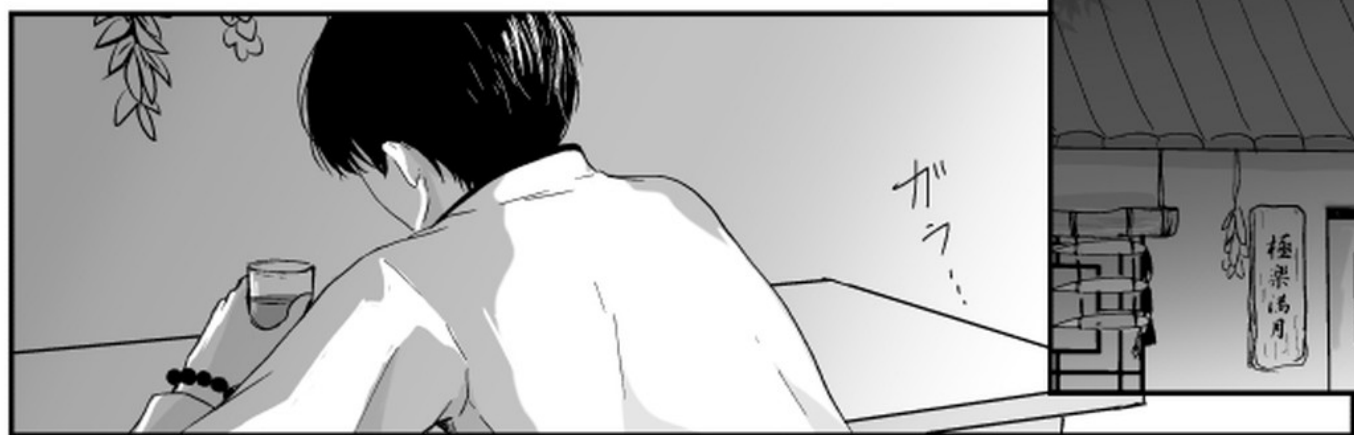
一人は嫌!
耐えられないの!
一緒にいたい!



え……?









僕やっぱり
お前の気持ちには
応えられない



…なぜです？

やっぱり
男相手なんて
ムリ

それに
僕は誰かひとり
恋人を決める
なんて
できないし
ハハハ

はっきり
言ったらどうです

愛した人に
置いて行かれるのが
怖いと





白澤さん

…そうだよ

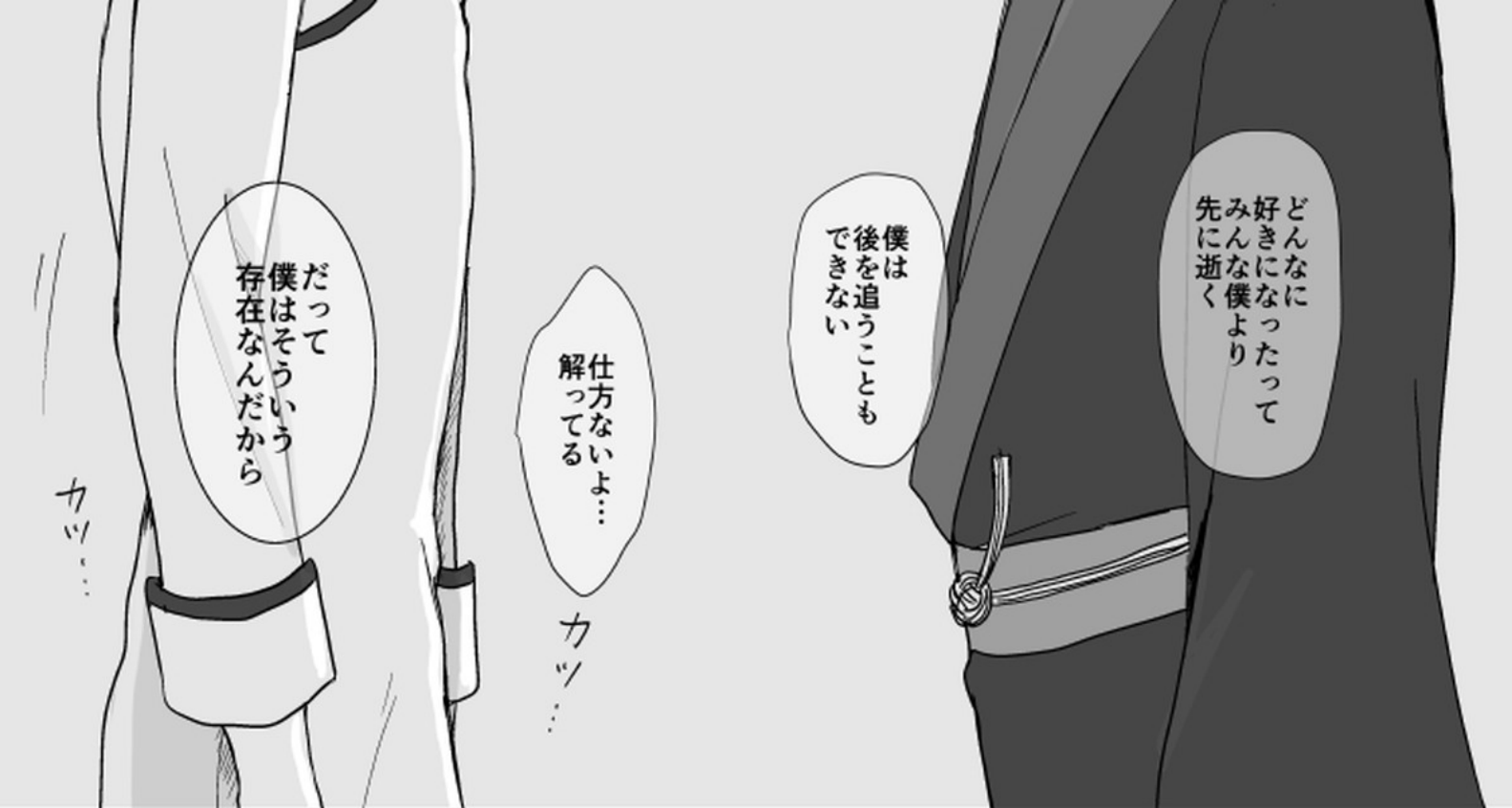
ガタン



あなたこの間
強さの秘訣は
忘れることだと
話してましたね

お前…
聞いてたのかよ

それは
ひとりでいる
孤独を忘れるため
ですか



どんなに
好きになっても
みんな僕より
先に逝く

僕は
後を追うことも
できない

仕方ないよ…
解ってる

だって
僕はそういう
存在なんだから

カツ…

カツ…



お前の告白も
きれいさっぱり忘れて
なかつたことに
してやるから

とん…

だから
お前も…

許しませんよ

カッ
カッ



だったら

忘れてしまおうしか
ないじゃないか



お…まえ…っ!!

カツ



無かったことになど
してやるものか

追って追って
どこまでも
つきまどって

片時も離れずに
いてやる



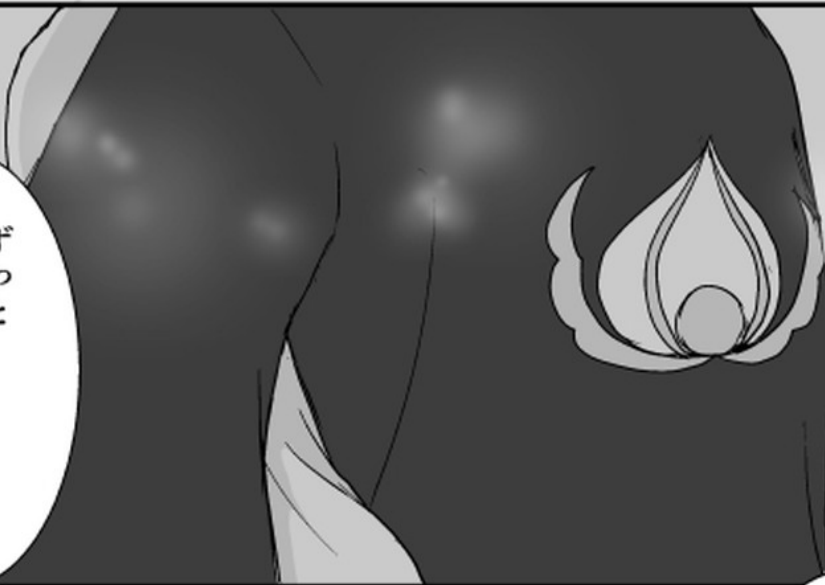
痛い!

やかましい

パン!!

どんだけ
嫌がらせする
つもりだ
性格わりーな!





理解の遅い
駄獣ですわね


ずっと
そばにいてやるって
言ってるんですよ

私は
そう簡単に
死にはしませんよ


あなたが
嫌だとしても
そばにいてやる

離れられる
だなんて
思うな

あなたへの妄執で
新たな鬼火を呼び



仮に私が
死んだとしても



必ずまた
蘇ってやります



ブ
ン
ッ

……さっきの
お返しだ

白澤さん？



返事は？



そんだけ言うなら
やってみろよ

どこまでも
つきまとって来い

お僕が
お前のこと
永遠に
忘れないように



ハッ

ハッ

望むところだ
この白豚ア!!

えっし
えっし?!

トク

え...うそ...
いきなり...

...すんの?

当然でしょう

老碌じじいが
自分の発言を
忘れないうちに
即実行です

あ...あのさ...
僕このあいだの
お前との記憶
まったくなくて...

男同士って
どうしていいの
かよく分かんない
んだけど...

私だって
初めてですよ



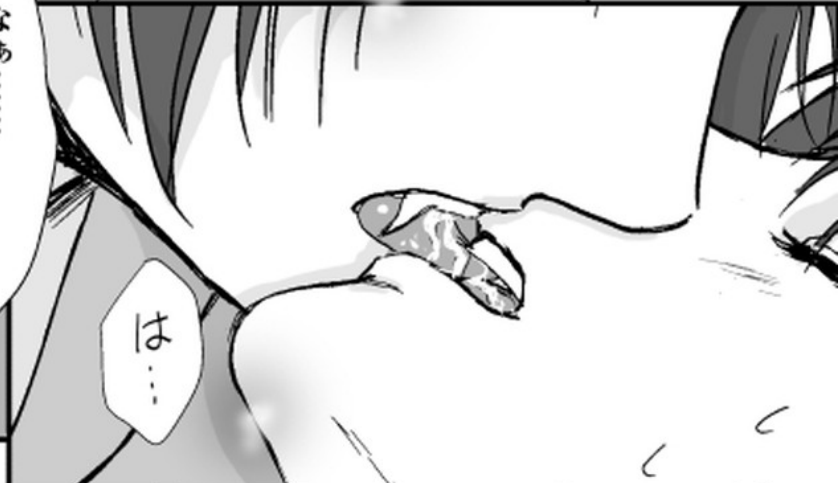


ん…



やっぱり
僕が下?

なあ……
一応聞くんだけど



は…



いや…僕
一応女の子との
経験豊かだし

当たり前だろ
不服ですか



はあ?



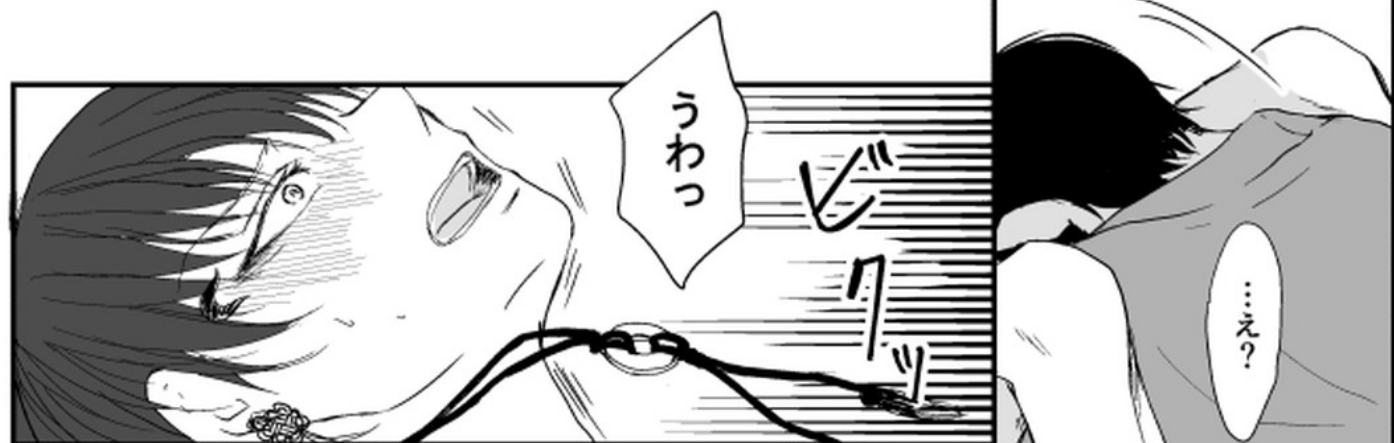
…なんでも
ないです…

で?

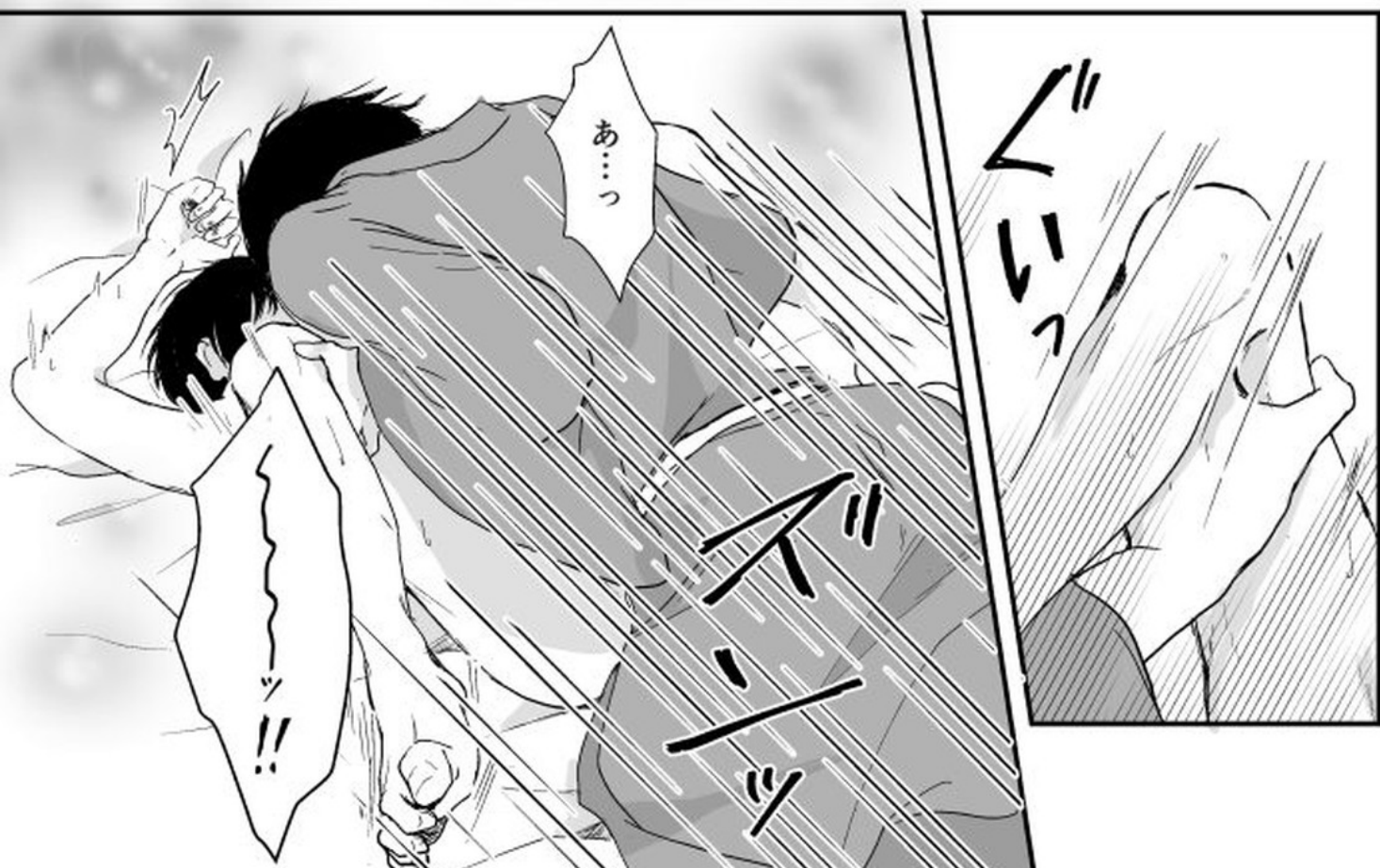
ほう……

抱く方の
テクニクには
少しは自信が…











正直
痛いし苦しいし
重いし

目の前に見える顔は
女の子達みたいにも
可愛くも優しくも
ないけど

なんかちよつと
嬉しいかもなんて
思ってるよ

ギョウ...

んんん...ッ

うわっ
おまえっ
また大きく...っ

...うるさい
おまえが悪い...

あ

んっ

ぐ...っ







あ...

なんですか
その顔は

帰ったんじゃない
なかったの...?

なに言ってるんですか
朝食くらい
食べさせる

ん
ケキクさい



願わくば

次に
ここに泊まった
朝には

恋人の作っ
朝食が食
べたいです



どーしょ……

アイツの好きな料理
覚えなきや……



閲覧ありがとうございました

たとえるなら青天の霹靂のような
tatoenunara seiten no hekireki no youna

Hozuki no reitetsu unofficial fanbook
鬼灯 × 白澤

2018.1.14 jigoku tokubetsu kaigi 9

